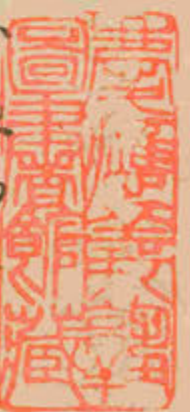


古今集序

第四註

古今和歌集序註并四



わ〜〜の流はら〜〜て〜  
そにめは〜〜ら〜〜

こは比〜〜て舞は流中〜  
尊の時〜〜海は〜

同云あ〜〜の地〜〜て〜  
と〜

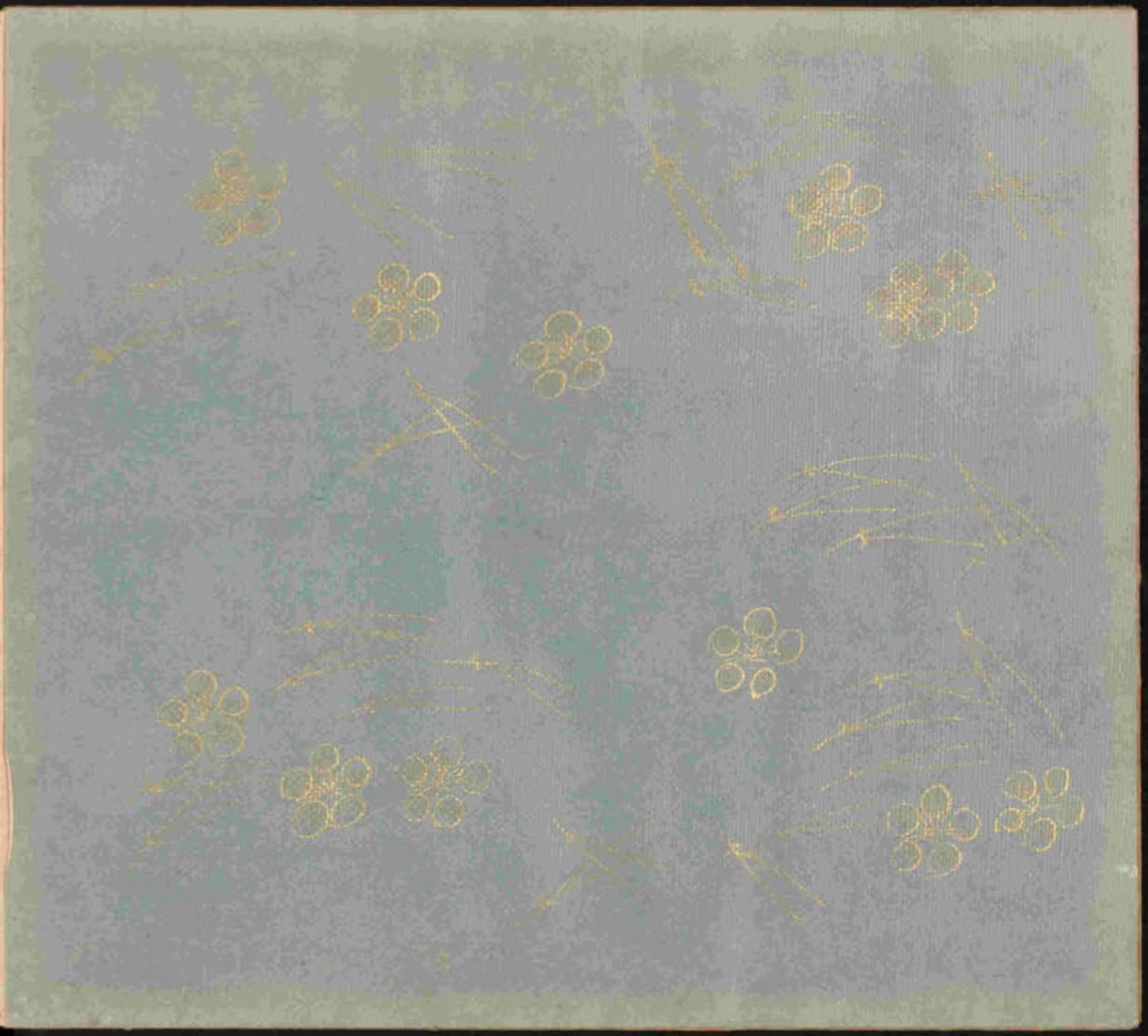
善云地比〜〜ら〜〜は〜  
あ〜〜て金銀銅鐵等れ

と〜

さり〜〜ら〜〜は神を〜  
ら〜〜ら〜〜は神を〜

ら〜〜ら〜〜は神を〜  
ら〜〜ら〜〜は神を〜

ら〜〜ら〜〜は神を〜  
ら〜〜ら〜〜は神を〜



此神是れ汝等金を此の地にて討  
つる故よ此跡の國と申すは是  
をせよりらるるはも此神よ人を  
果斬りしは此神より代り来り  
よ此神の神も此金等此より  
今の世もは土よ此の神  
くりてありらるる此の神  
鑄銅破金を此の神も不銅鑄  
神也之後も草やんと此神  
あはれりらるる金は此神より

此の神も土は此の神より金を此  
わらるるの神と云也  
同云と云ふやれ此神と云よ天地  
同神たりらるるを此の神と云  
此の神の神を此の神と云  
この神も下照此の神を  
又此の神も此神を此の神  
此の神天地は此の神と云  
此の神も此の神と云  
此の神も此の神と云  
此の神も此の神と云

わのよして讀くは後なるは  
今又素盞爲尊よわの  
波らうしてはとておはは比の  
弄りうらふは後の中はいん  
るやうはうは後との鳥尊の  
三十一字の弄りうらふは  
た化やまら席へ

速千素盞爲尊到出雲國始有  
三十一字の詠今又介た化也  
此の素盞爲尊神振來り

神はうらふは後との鳥尊の  
あつたは後との鳥尊の  
里波川とよはうは後との  
しるり后位せまはまは十二  
三つらうらふは女をうらふは  
あつたは後との鳥尊の  
うらふは後との鳥尊の  
位のあつたは後との鳥尊の  
あつたは後との鳥尊の

非し云として家の男女子八人位  
を世若し顔八尾八と大地を故  
大地も年く一人宛くしし  
て歎きしししししししししし  
持しししししししししししし  
此も世もよらししししししし  
あつしししししししししし  
尊長りしてししししししし  
命はまよはんとしししししし  
いしてしししししししししし

とてしししししししししし  
うしてしししししししししし  
くししししししししししし  
うしてしししししししししし  
是れ又大地来て先世舟も酒をの  
らり世酒のの酔て外れ又しし  
尾の中は一尾のみししししし  
しししししししししししし  
んも尊しししししししししし  
を世地を切りししししししし

と鈕と取大聚々鈕と匙は  
単錐鈕と地母と中景行  
天是り清の日中武尊東行  
子世あはくはし時任地  
國太神多清照りもあははり  
さり寸びきて地母をばり  
とあはきて事ばあははり  
國を事日中武尊ばとて  
節。火河竹々尊を楚あり  
とんとせし時地母とては

くきて單ばあははりは敵り  
事れくはりははりははり  
り天兼い初とをんをりは  
單錐鈕と多日中武尊の  
とて三十と物といはるは  
ぬ中とはサ外てあははり  
とを取といは三十とて事  
りあはらりははりははり  
あはら馬とて事ばははり  
とてははりははりははり

事人人の縁に於て一々の事を付  
らるる事もよき事なり  
此鳥よりてきつりしもの鳥を  
と云世をぬひさるしにやとて  
鳥取と云世の先程と云鳥取等  
る事の付てしもの鳥を  
は身取せよの付てしもの鳥を  
くくさるひりての鳥を  
道もてし病付て白鳥と云りて  
をりせぬも此草籬鈕は張

國勢田社よりゆりて八羽の大神  
と云はるし十柄鈕は十拳と云は  
十柄と書して十柄と云也世継と云  
はる物いふをば金三升天皇  
太子譽津別命と云り景行  
天皇の舎尾と云りるる寶鈕  
とて帝の御寶もなると云草  
籬鈕と人王十代帝宗神を  
元年甲申三月に移してはる  
しはるる時造神靈と云

私云安徳天皇御時西海産入

同云ゆはりつらつらとほららるるもさ

答云御ミ日也ニ日本紀云采女ニを

皇ミコ御ミ日也ニ日本紀云采女ニを

女メりニらりニのハ媿女ニのハなニて

ゆはれつらつらとほららるるもさ

のハ媿女ニのハなニて

素盞鳴尊ニのハ首ニをハひて出し

ゆはれつらつらとほららるるもさ

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ

方ニはリゆリらリのハ媿女ニのハなニて

加ハ推レ斤ニ邊ニ加ハ瀬ニ粟ニ余ニ神ニ依リ氣ニ

天ニ醉ニ常ニ貝ニ余ニ我ニ彼ニ来ニ氣ニ梨ニと

のハらリゆリらリのハ媿女ニのハなニて

らリのハらリゆリらリのハ媿女ニのハなニて

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ

とらるハ神ニ切ニ依リ入ル豊ニ志ニ加ハ推レ



ふらふらとて世に又うをけは心壁の  
しつらひりよとて世に  
ふらふらとて

夜がた多克伊勢毛夜霜  
織成菟鷹語味尔夜霜織成  
和保盧照画夜霜織成尾  
或云兼益鳥尊到出雲國  
後地於伊勢造宮乎曰やちや  
世よりこしとんこし前後の  
二も垣や中のしつらひり

くやち中つしとて

けりちてそは鳥嫁てしとて  
則橋田作也こりての嫁もや又も  
兼也つらちやとての鳥  
一兼云久つらちの地りも色は  
のちつらちとての鳥  
しつらちとての鳥

同云兼益鳥尊也  
鳥一時又つらち  
つらち



て葉ふふかのちのひ残の葉の角よ  
覆筆せとこる方の角よきらた  
ひし僧の法読れと復蓋とふ葉  
帝とれとらふ蓋れとれとてあ  
世胎内てものよあしあふか  
四方の角ばつやとせと世の  
て壁のてと復と申の指田姫と夫  
婦一きりふとこやばとあふ  
ぬい須詠山てわう國とふ別と云  
小列のゆとたのてと國是人壽

中歳はつらり比の向の皆解を  
衣食うあつひをのつとてあ  
つらよお現とてつとて控わよ  
ふのせとや成人と親の責言ば  
ゆさふつらとん親をばつて不  
知いんや云親をや男女わひ嫁  
先とていばあつてよしとふ  
つとつと親あつてよはははねをた  
せねひしてと守たてお嫁とて  
うりた親りかよはははねをた

皆くは之時六親と知てんは

六親は父母伯父  
伯母兄弟 子し世稲田作也

夫婦くちりし中夜故に別りませ

松を畫めなひてきりりりりり

世くちりりりりりりりりりりり

入るりりりりりりりりりりりり

ふ父くちりりりりりりりりりりり

蒼雲八雲はあしりりりりりりりり

きりりりりりりりりりりりりりり

はりりりりりりりりりりりりりり

又一首云ハ又りりりりりりりりり

金可界大日如來也此二おりりりり

て此一字ハ縁字はりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

世二およわりりりりりりりりりり

二何りりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

ハ凡一ねりりりりりりりりりりり

項りりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり



頂上人佛寶冠の中尊ハ胎藏  
界大日胎藏界人佛宝冠の中  
尊ハ金剛界ハ大日如來ハ  
此の胎藏界ハ中尊ハ胎藏  
界ハ金剛界ハ大日如來ハ寶  
冠ハ胎藏界大日如來ハ  
此の胎藏界ハ中尊ハ胎藏  
界ハ金剛界ハ大日如來ハ  
寶冠ハ胎藏界大日如來ハ

陽の二つことばハ此の如し  
いづれハ胎藏界ハ中尊ハ胎藏  
界ハ金剛界ハ大日如來ハ  
此の胎藏界ハ中尊ハ胎藏  
界ハ金剛界ハ大日如來ハ  
寶冠ハ胎藏界大日如來ハ  
此の胎藏界ハ中尊ハ胎藏  
界ハ金剛界ハ大日如來ハ  
寶冠ハ胎藏界大日如來ハ

しりは真云密蔵をわくくせ  
つし又我朝は法は傳ふ事し  
事もわりの天名真云の傳教所  
東寺の馬の弘法大師の時より  
故女は作の則人五十三三代  
桓氏平城嵯峨の人の人せいふ  
うへ海よりわくくせ法は  
ひくくせわくくせいふ  
素盞鳴尊のくくせわくくせ  
事もわくくせわくくせ  
息不審せもわくくせ

吾云はくくせいふくくせ不審  
くくせ國のくくせ大日中國のくくせ  
をくくせくくせ伊弉諾伊  
弉册尊の天神七代のくくせ神也  
今れ素盞鳴尊の祖也くくせ  
天をくくせは陰陽わくくせをわくくせ  
氷庭下のくくせくくせくくせ  
をくくせくくせ胎金女はくくせ大日如  
の年明くくせくくせくくせ

定中唵婆伽羅駛都婆阿  
脩羅叫鈕めもはもはらねて  
我は陰陽わりの漆漢は胎金女  
顔はわくくは天のくもそはる  
やしてえは洋くくくさうは  
それ針の刺り下もそれ漢あり  
て國とあつたしは大嶋も國  
則とせら時魔とこは地意  
佛法流布してろこは元生  
得道とて安くの中として

新造の國をくくくくくく  
神魔とよびひて推して回  
此國のわんもくくくくく  
くくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくく  
淨子天照太神をくくくく  
后一持地祠をくくくく  
くくくくくくくくくく  
中はくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく



云て神殿近くもまゝに神系  
まてあゝとて神系とてまゝに  
内より佛法をとりてひらけて  
法中法神とてなす内文則  
胎藏界大日如来外文の金剛界  
の大日如来とて御しとて  
くさくさくさくさくさくさく  
八重よつとてくさくさくさく  
表しとてまゝにまゝにまゝに  
中国といふんとて大日中国といふ

少時と天神の代とてまゝに  
又弘法大師入唐の事とて我朝と  
真とてまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに  
大日蓮宗弘法大師の法  
不害はまゝにまゝにまゝに  
まゝにまゝにまゝにまゝに  
同之業蓋爲尊の天照を神とて  
まゝに下照を天照を神とて  
まゝに下照を天照を神とて  
まゝに下照を天照を神とて

孫女うりうりふ下照姫は先  
うして素盞烏尊と云は後い  
事あるはさしとある

答云時代前後もはうして天  
地人の三女神は神の言の人の  
きりよくして言也と云下照  
姫の言のまより下よりしん  
あひ嫁しては名残をさして  
天も素盞烏尊を言りてあそ  
て地も言はれありありと云  
天よ

取て素盞烏尊地うして地  
女と云んして造るは時  
地うしては地と  
取て訓不實なる物なりと云  
あか神の言は言りてと云  
たきくは言りてと云  
素盞烏尊と云りてと云  
あか神の言は言りてと云  
あか神の言は言りてと云  
あか神の言は言りてと云

神匠土環尊よりしりてまは  
おもてかひびのまを詞うあし  
みず日さしりまをてのよ下照耶の  
弄り申はまは

同えらしりあつ神代はらまを  
昔えらしりあつ神代はらま。  
云りりしりいず保後保野冊尊  
此國はけりしりあつを  
魔とんて佛法流りしり  
國らりしりいしをん

きし時この國の神はらま  
らんりあよ千の釘り細は  
ましりてあしりしり  
らまをてあつらまは  
うは千解り包いしを解り  
神といんらあよ千母破神と  
らりり一尊云巫女はらま  
てしりああはらり物  
あつを神の沙前を奉時  
神はらまはらま



いふことありては、  
とていふことありては、  
らるることありては、  
よきことありては、  
いふことありては、  
らん事ありては、  
同く素盞鳴尊の地神の事あり  
よきことありては、  
らん事ありては、  
いふことありては、

答云、素盞鳴尊の時を人の代

えもはありては、  
あまの事ありては、  
けしきありては、  
ちり尊の三十一なることありては、  
後にもありては、  
いふことありては、  
らん事ありては、  
いふことありては、  
らん事ありては、

又同く素盞鳴尊の神の代





後ふらり申渡さば花をめでと  
云らちよひのこころのこころ  
とよもよひ一紙おしめて自余  
唯々忠仁に良房なり云  
年ゆきはよひのこころは  
わがこころをこころは物なり  
ふら馬をこころは東三東  
た大良常なり云  
萬れよたのよてぬ梅の花なりて  
のこころをこころなり云

辰と毒をこころに同院ゆる方ゆりて  
後張りひらき武藝を教へ人給へん  
のこころに書しよひのこころ  
教へた家をよひのこころの  
梅は毒をよひのこころに  
のこころに書しよひのこころ  
をよひのこころに云

花のよひのこころをよひのこころ  
のこころに書しよひのこころ  
中のよひのこころをよひのこころ



おんいづれもかまわさず

きこふもせむらにわたりて  
年月を海にさしめて舞はらひ  
しりあやしてわらふもたのしみ  
中りりいへた世うもくはらへ

世人の白根易産石銀之千里旅道下  
高の起山殿塵とらりひらとる塵土  
せまきはらひらとほげ或人会土よ  
とくしむらうひらとる中し  
同懐國の凡俗もとる家物集云

らたあそいへて  
わあじもくついでく 古す云  
男のけいもたにがわらうと  
ふかふか  
翁そりし時そわらして  
是れ教あよ近針そん  
はらり  
さ  
始

花のうらみはさかしく  
はなはなとさかしく  
花のうらみはさかしく  
はなはなとさかしく  
花のうらみはさかしく  
はなはなとさかしく  
花のうらみはさかしく  
はなはなとさかしく  
花のうらみはさかしく  
はなはなとさかしく



110 X  
341  
10